

## 中央アジア・コーカサスにおける取組の基本的方向性

●中央アジア・コーカサスはユーラシア大陸の中央付近に位置する内陸国が多く、資源エネルギーも豊富であることから、我が国にとり、外交的に重要であるのみならず、資源エネルギー安全保障上の価値も高い地域。また、インフラの老朽化や市場経済への移行等の課題はあるものの、我が国企業のビジネスチャンスは確実に存在。

●さらに、当該地域は、国際社会にとっても、近年、陸上物流の要衝、資源エネルギーの安定供給、さらにはテロ・麻薬対策の観点から安定的発展が期待される場所である。同時に、従来からのロシアの影響力に加え、中国の「一帯一路」構想の軸軸ともなっている。

●我が国としては、当該地域との関係をさらに強化していく中で、インフラの側面からは我が国企業の当該地域への海外展開を進めるため、①総理・外相往来等のハイレベルの外交機会の活用、②官民対話の活用、③日本に留学した若手行政官のネットワークの活用、④トルコ企業など第三国の企業との連携、⑤投資協定等の法的枠組の整備等を推進。

## 1. 中央アジア・コーカサスの概要

### (1) 政治情勢

●1991年、旧ソ連から独立（我が国は昨年各国と国交樹立25周年）。現在も政治、安全保障面ではロシアとの関係が深い。経済面での中国の存在感が飛躍的に増加。民族的に近いトルコも一定の影響力あり。

●アジアとヨーロッパ、ロシアと中東を結ぶ十字路に当たり、この地域の情勢は、ユーラシア大陸全体の平和と安定に大きく影響。特にイラン、アフガニスタンと国境を接しており、この地域の動向は国際社会全体の大きな関心事。

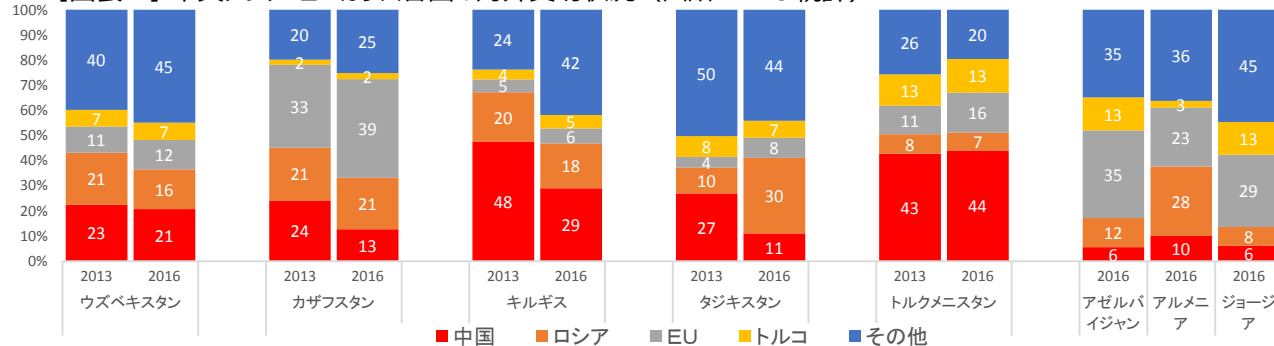
●独立後、政治的民主化と国民経済の発展・向上のバランスを獲得するまで、政治体制は中央集権的なものとなっている。

### (2) 経済情勢

●資源国と非資源国で経済格差が拡大、またロシア経済の減退や原油価格の下落を受け、経済成長が減速。【図表1】中央アジア・コーカサス8カ国の基礎情報（出所：JICA資料）

国名	GNI/人(\$) 2015年(上) / 2016年(下)	主要産業等	人口 2016年(百万人)
カザフスタン	11,580 8,710	資源(石油・天然ガス)、 農業、冶金・金属加工	17.9
トルクメニスタン	7,150 6,670	資源(石油・天然ガス)、 農業(綿花)、牧畜	5.5
アゼルバイジャン	6,560 4,760	資源(石油・天然ガス)	9.5
ジョージア	4,160 3,810	農業、食品加工	3.7
アルメニア	3,880 3,760	農業、宝石加工	3.0
ウズベキスタン	2,150 2,220	農業(綿花)、出稼ぎ、 資源(石油・天然ガス)	31.3
タジキスタン	1,240 1,110	農業(綿花)、アルミ 水力発電	8.7
キルギス	1,170 1,100	農牧業、資源(金)	6.1

【図表2】中央アジア・コーカサス各国の対外貿易状況（出所：E U 統計）



## 2. 我が国にとっての中央アジア・コーカサスの重要性

●エネルギー・鉱物資源が豊富。資源供給国の多様化を目指し、資源・エネルギー外交を展開する日本にとって重要。

●親日的であるこの地域の各国は特定の国に対する過度の依存を避けるため我が国との関係強化を重視。緊密な外交関係は我が国にとってもアセット。

安倍総理の中央アジア政策スピーチ  
【平成27年10月28日：於カザフスタン】

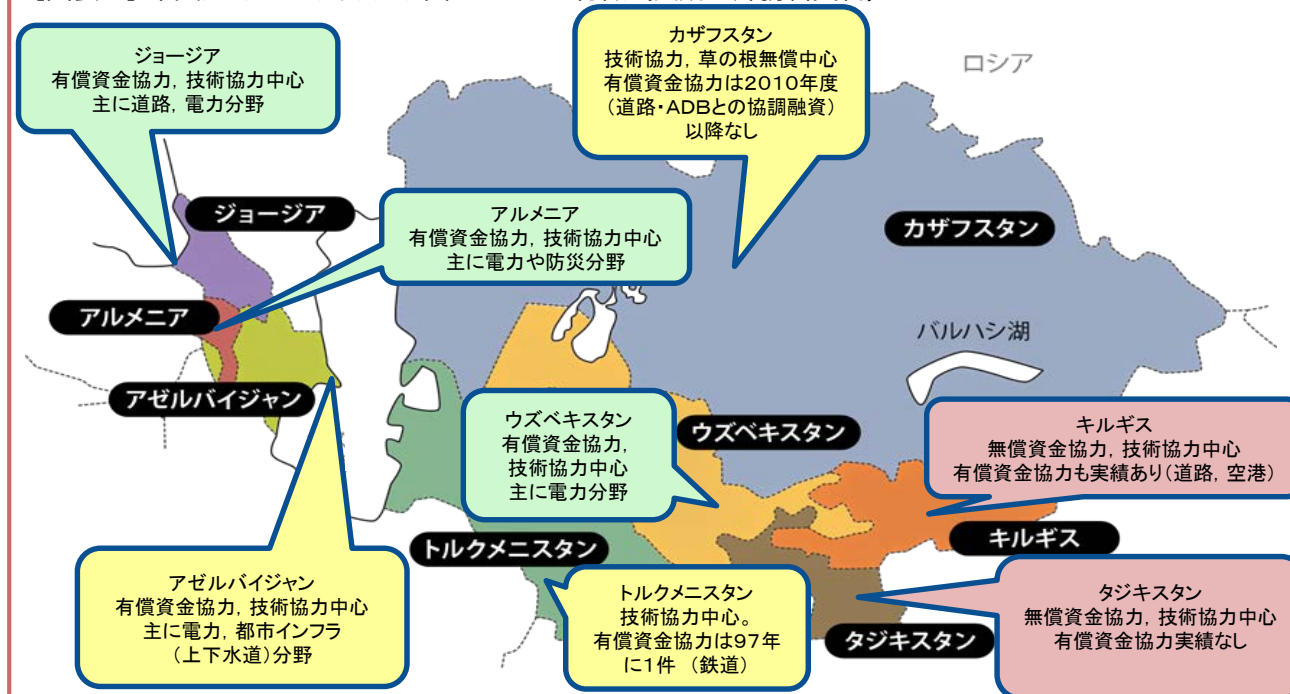
【メッセージの3本柱】

- (1) 中央アジア各国との関係を抜本的に強化。このために産業の高度化を図り、人材を育成。
- (2) 日本は、中央アジア地域に共通する課題に積極的に関わっていく。
- (3) 日本と中央アジアはグローバルな舞台でも協力を深めていく。



政策スピーチを行う安倍総理  
(出所：外務省HP)

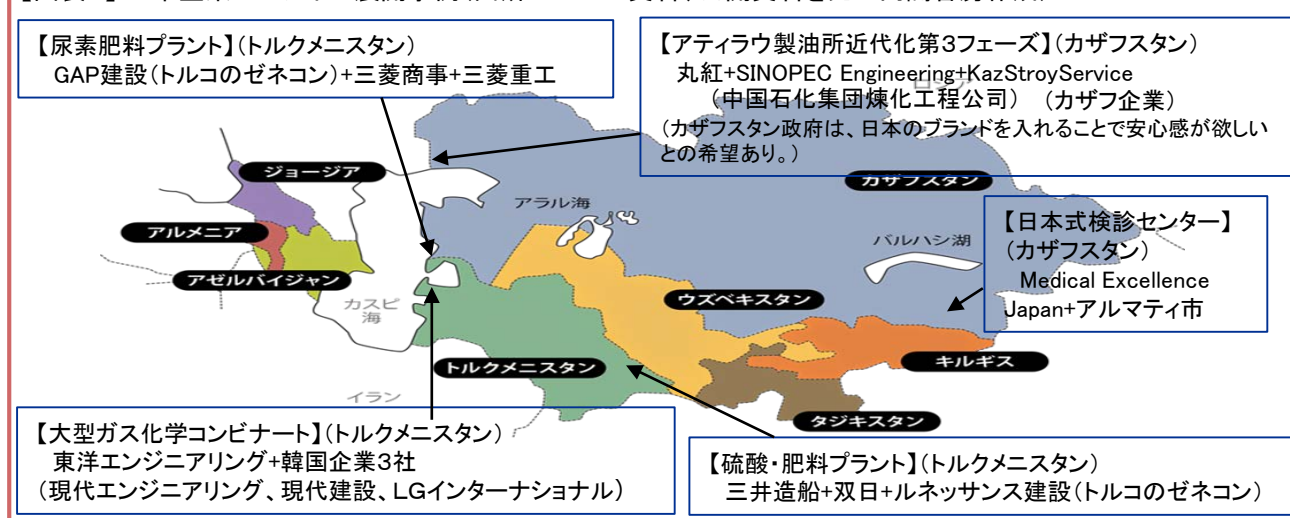
【図表3】中央アジア・コーカサス8カ国へのODAの特徴（出所：外務省資料）



### ●当地域において注目すべき日本企業の動き

情報不足、地理的要因等から、第三国の企業に比して日本企業の出遅れ感はあるが現地事情に詳しい他国の企業と組んでビジネスを展開する例も出てきている。

【図表4】日本企業のビジネス展開事例（出所：JETRO資料、公開資料を元に内閣官房作成）





### 3. 中央アジア・コーカサス地域が抱える課題と対応の方向性

(出所：JICA資料を元に内閣官房作成)

課題		対応の方向性
質の高いインフラ整備	・経済・社会インフラの老朽化	・老朽化した経済インフラ（運輸、電力等）、社会インフラ（保健、給水等）の再構築
	・域内連結性の強化（ソ連からの独立後、域内分業体制が崩壊、連結性が低下）	・「中央アジア+日本」対話（後述）等の枠組みの活用 ・運輸・物流網の整備「運輸・物流協力イニシアティブ」（後述）
産業の多角化	・資源依存からの脱却	・直接投資促進（含む各種官民対話の実施） ・投資協定等の法的枠組みの整備等の推進（協定締結済みのウズベキスタン、カザフスタンに加え、本年2月、日・アルメニア投資協定に署名。その他の国とも交渉中。） ・プラント等輸出促進、我が国の優れた技術の活用（製油所、都市開発） ・農業・農産加工業や中小企業振興 など
	・資源賦存国と非賦存国との格差の拡大	・雇用の促進、国内格差の是正（キルギス一村一品アプローチによる小規模ビジネス拡大）
人材育成	・市場経済化に適応可能な人材の不足	・法制度整備支援（国営企業改革等の市場経済化、人材育成奨学計画（JDS：後述））
	・ガバナンスの向上	・政府機構の人材能力向上 ・ガバナンス関連研修（汚職対策、刑事司法）
地域の安定化	・イスラム過激派の脅威の拡大	・アフガニスタンとの国境地帯の生活環境、国境管理改善 ・治安、テロ、麻薬対策管理

### 4. 今後の主な取組

#### (1) 質の高いインフラ整備

##### ●ジョージア 東西ハイウェイ整備事業

(出所：国交省資料) ○アゼルバイジャン共和国から黒海沿岸を結ぶ約460kmの国際幹線道路。黒海とカスピ海、ひいては欧州とアジアを結ぶ重要路線。  
○我が国は、世界銀行等との協調融資により、新規道路の建設、既存道路の改修、道路防災対策工事を実施中。



【フェーズ1区間における建設・供用後の様子】



##### ●キルギス 国際幹線道路改善事業

(出所：JICA資料) ○キルギス南部の3主要都市であるオシュ、バトケン、イスファナを結ぶ国際幹線道路の改修及び首都ビシュケクと第2の都市オシュを南北に結ぶ国際幹線道路における防災対策を行うことにより、道路輸送力及び安全性の向上を図る。



#### ●ウズベキスタン 発電所等整備事業



(出所：JICA資料)

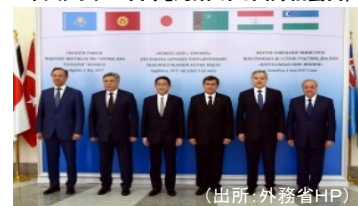
○同国の電力セクターに対して、電力関連のインフラ整備等の包括的な支援を行うことにより、電力の安定供給を図り、同国の持続的な経済発展に寄与する。



イメージ写真(出所：東洋エンジニアリング)

○エチレン、ポリエチレン等を生成するガス化学コンプレックス設備の改造・新設のためのFS調査を実施中。

「中央アジア+日本」対話・第6回外相会合



(出所：外務省HP)

#### ●「中央アジア+日本」対話の枠組みの活用

- 「中央アジア+日本」対話：2004年8月、日本と中央アジア諸国の対話・協力の枠組として発足。
- 昨年5月の「中央アジア+日本」対話・第6回外相会合（於：トルクメニスタン）での議論を受け、岸田外相（当時）より「運輸・物流協力イニシアティブ」を発表。運輸・物流分野において、240億円規模の支援を行っていく旨表明。

#### (2) 産業多角化

##### ●各種官民対話の実施

- 「中央アジア+日本」ビジネス対話  
「中央アジア+日本」対話の枠組みの下で、中央アジア各国でのビジネスの可能性の紹介、各国参加者と日本企業関係者等のネットワーキング等を実施。
- 官民インフラ会議  
老朽化インフラの更新・新設の見込まれるウズベキスタン、カザフスタン、キルギスにて、日本企業の現地進出支援、今後の案件形成を目的とした会議を実施。



「中央アジア+日本」ビジネス対話

(出所：外務省HP)



ウズベキスタン官民インフラ会議

(出所：国交省資料)

- キルギス 輸出のための野菜種子生産振興プロジェクト  
ソ連の崩壊に伴い、種子生産は著しく減少。種子生産技術の普及などを支援し、輸出に向けた野菜種子の生産振興に寄与。



タマネギ種子生産圃場

(出所：JICA HP)

#### (3) 人材育成

- 日本人材開発センター\*1で学んだ人や人材育成奨学計画（JDS）\*2に参加した各国の政府職員のネットワークの活用。  
(\*1) JICAのプロジェクトとして、ウズベキスタン、キルギス及びカザフスタンに設置。市場経済化に貢献する人材育成を支援するため、ビジネスコースを中心とした教育を実施。  
(\*2) 対象国において将来指導者となることが期待される優秀な若手行政官等を日本の大学に留学生として受け入れるもの。対象国はウズベキスタン、キルギス、タジキスタン。

JDS留學生の帰国後の活躍 (出所：外務省資料)		
キルギス	ウズベキスタン	タジキスタン
法務大臣	国家投資委員会局長	経済開発貿易省部長
大統領府首相補佐官	大統領府シニアコンサルタント	財務省投資誘致部副部長
経済省副大臣 等	閣僚会議チーフスペシャリスト 等	タジキスタン国立銀行副部長 等



ウズベキスタン・タシケント 日本人材開発センター

(出所：外務省資料)

#### (4) 地域の安定化

##### ●薬物・犯罪に対する国境連絡事務所設置及び越境協力強化計画(UNODC連携)



カザフスタン・キルギス国境における国境警備隊の共同公開演習（写真：UNODC「国連薬物犯罪事務所」）

○国境管理体制が脆弱な中央アジア諸国において、国境連絡事務所の新設及び機材整備並びに治安機関職員の能力強化等を実施することにより、中央アジア諸国の国境管理、麻薬対策の強化を行うもの。（出所：外務省資料）

中央アジア・コーカサス地域との関係強化や我が国企業の海外展開を促進するため、ODA等を活用し質の高いインフラ投資を進めるとともに、官民対話の活用、日本に留学した若手行政官のネットワークの活用、トルコ企業など第三国の企業との連携等の施策を推進。